

校長研修だより181

マタイによる福音書 18章 20節

2025・1・6 重枝 一郎

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく。

11月の朝の礼拝で、中3宗教委員会が「教会へ行こう」という題で話した。その際の、聖書箇所は、「マタイによる福音書 18章 20節」であった。

「二人または三人が、わたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」

これを読んだ時、私は、校長研修だより 76号「マスターマインドグループ」と159号「校長のリーダーシップの取り方を教えてください」が結び付いた。

私は、教師の主体性育成が、持続可能な学校づくりの本質だと思っている。そして、主体性を育むために、「職場の心理的安全性」と「働きがい」をととても気にしている。一人一人が少しでも主体的であれば、その主体性の総和が、相互作用としてチームの雰囲気をよくしていく。もちろん個人としても、必ず何らかの経験を手に入れることができる。これが成長型マインドセットである。

ただ、その「主体性」も注意して見ていく必要があると思っている。たとえば、A先生が校長室に来て「〇〇したいのですが」と言ったとする。しかし、その願いは、おそらくB先生たちからは反対される内容であり、A先生は「校長先生から許可をもらいました」というアリバイ作りのために言いに来ている場合がある。その場合私は、A先生に対して、「すでにいろんな他者と協働できているか」を問う。つまり「マスターマインドグループ」があるかどうかということである。であるなら、調和された知恵と努力の協力関係がすでにあると判断するようにしている。二人ないし、それ以上のメンバーでお願いされた場合は、まずはやらせる方向で考える。なぜなら、私が一番嫌なのは、誰かがするだろうという人任せ的な意識や、全く無関心な態度である。

「マスターマインド」とは、「思考の振動」とも言う。成功哲学用語として有名な言葉である。明確な目標を達成するために、二人ないし、それ以上の人が集まって、調和された知恵と努力で協力していく、これが「マスターマインドグループ」になる。どんなに優秀な人でも限界はある。他者からの知識や経験を手に入れると、新たな価値を生む。他者と調和できたら、個では成し得ない結果を出せる。メンバーの相互作用はチームのモチベーションを高める。こうなると、私の期待を上回る結果を出す場合が多い。

「マタイによる福音書 18章 19・20節」

「はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父は、それをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」

私の中では、日常がつながった感じである。

3学期は、学年主任が1年間の総括をし、それを次の学年主任に伝え、次の人は、マイナスを修正、プラスをもらおうといった、つなぐ意識を強くもつ